

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	法学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.2 教育課程・教育内容
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
要素	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ(学部) コースワークとリサーチワークのバランス(院)
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
要素	学生課程教育に相応しい教育内容の提供(学部) 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容(学部) 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供(院) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供(専院)

### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

#### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 前期課程エキスパートコース学生を対象とするカリキュラムの適切性を継続的に検証し、必要に応じて改善する。	→「プログラム別学生数」「専攻科目」「履修科目」「学生に対するプログラム選択理由等についてのアンケート調査の実施」「拡大大学院問題検討委員会における調査結果の分析および改善提案」	B	B	B	B	A
2. 前期課程社会人入学者を対象とするリサーチワークの拡大について検討し、順次実施する。	→「リサーチワーク対応の科目数」「前期課程社会人入学者を対象とする研究指導のあり方についてのアンケート調査の実施」「拡大大学院問題検討委員会における検討およびその進捗状況の報告」「規定改正ないし内規改正」	C	C	C	C	C
3. 前期課程および後期課程における学生の多様な履修期待に対応するために特講科目等を活用する。	→「(副題の異なる)特講科目等の開講状況」「特講科目等の履修者数」「特講科目等を開講するための各プログラムおよびプログラム間の調整手続の整備状況」	B	B	B	B	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

## 《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 前期課程については2009年度にコア科目と選択的コア科目を区分し、履修上の指針とするとともに、同一科目、同一教員担当科目についての修了要件に関する内規を改正。2012年度にはプログラム別に学生にプログラム選択理由を問うアンケートを実施、FD委員会、大学院問題委員会で分析検討した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か アンケート結果は回答者により様々であるが、外国文献科目と他のプログラム科目との履修時間の重なりなどの履修が困難な場合があることが判明した。大学院問題検討委員会で議論し、個別回答も含め研究科会議に報告することによって現状の認識の共有をはかると共に今後の議論の素材が得られた。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か アンケートを基礎とするFD協議会で検討に基づき2014年度より外国語文献科目を増やすと同時に、履修科目の開講時間の重複について各プログラムで調整して頂くよう2013年度拡大大学院問題検討委員会で要請した。その他、制度的な改善案より、アンケート結果を参考とした教員による指導の個別的改善に委ねることが望ましいものもあった。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標2	C	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2010年度には、前期課程・後期課程共に、各プログラムないし専攻ごとに高度な専門科目を特講科目として適宜開講できる体制を整えた。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 社会人の入学者が増えず、前期課程社会人入学者に対しては、高度職業人養成の枠内で対処している。リサーチペーパーの審査基準、評価項目も内規化した。社会人入学者に絞った特別な制度枠組は出来ていない。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 人数が少ないこともあり、差当りは担当指導教員の個別的指導に委ねているが、2013年度より院生アンケートは社会人入学者を分ける形で行っており、綿密に分析し、今後に生かしたい。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標3	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2012年度、特に公共政策プログラムにおいて、実務家の任期制教員による授業や、兵庫県の職員によるリレー講義などが行われている。また、2013年度には司法研究科教員等に依頼し、基礎法特講(陪審制度と裁判員制度との比較)、民法特講(フランス民法)等の特講科目を開講した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 公共政策プログラムでは、公共政策特講を開講、兵庫県庁との協定により実務経験豊かな講師が派遣されている。その他のプログラムでも院生の期待に応える幅広い科目が受講できるようになった。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か さらなる拡大の必要性については、アンケート結果にもとづいて、議論する体制を作り上げている。司法研究科教員とも連携しながら幅広い科目の提供を目指したい。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
備考			☆